

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「チャンス・チャレンジ・チェンジ」をキーワードとして、知的障がいのある生徒が「就労を通じた社会的自立」をし、卒業後生き生きと暮らしていける学校づくりを教職員が一丸となってめざす。

- 「チャンス」＝「人との出会い」を大事にする。学校外の人に広く本校の教育活動や生徒の良さを知ってもらう。
- 「チャレンジ」＝まずは、自己達成感を高められる生徒の個別の実態に応じた支援を行いつつ、最も多感な思春期を迎える高等部生徒の集団であることを踏まえ、生活年齢に応じた社会体験的な学びの場を多く用意する。未経験の課題に対して挑戦する力を段階を追ってつけるよう支援する。
- 「チェンジ」＝お互いの違い・よさを認め合う仲間づくりをめざし、生徒が自己肯定感を高める中で、めざすべき新しい自分（目標）を見つけて社会へ巣立つことができるよう支援する。

2 中期的目標

1 「就労を通じた社会的自立」をめざした『キャリア教育』の推進～教育課程と各教科の指導計画の充実～

卒業後に、前向きに生きていく力を育成する：ライフキャリア支援の視点に立ち、「むらのキャリア教育プラン（仮称）～働くためにつけたい力～」を定め、それらをねらいの軸として、各専門学科「フードデザイン」「プロダクトデザイン」「リビングデザイン」、職業共通（清掃・流通サービス・カフェ・キャリアデザイン）、各教科（国語・社会・理科・芸術（音・美・書）・保健体育・家庭・外国語・情報）を効果的に教育課程上に位置づける。お互いの授業が「つながる」こと、学習集団の編成を工夫することにより、生徒が社会で自立して暮らすために必要な学習内容の精選と、社会と「つながる」学びの場の創造に努める。

また、3年間で継続的系統的に教育活動をすすめられるよう、「むらのキャリア教育プラン（仮称）」に基づき、開校準備室作成の教育課程、シラバスの検証・改編を行う。日々の指導計画、マニュアル、教材・教具づくり、ノウハウの情報収集や実践記録の蓄積に各人が努め、その取り組みを教職員が共有することで、一貫した指導協力体制を確立する。

2 生徒本人を中心に据えた「支援と指導」体制の整備

「障がいによる学習上、又は生活上の困難を改善・克服し自立を図るために必要な知識、技能、態度及び習慣を養う」ために、本人やその周辺の環境の困難性を十分に把握し、本人や保護者の合意形成の過程を大事にしなが「個別の教育支援計画（含：個別の移行支援計画）」を作成する。また、教職員が人権感覚を磨きつつ、生徒が思春期であることをふまえた個別のカウンセリング的アプローチや集団指導力をつける。校内の教育相談体制を整備し、生徒が自分を大事にしなが、他者の人権を大事にし、差別やいじめを許さない「安心・安全」な学校づくりをすすめる。

自立活動や各教科の「個別の指導計画」については、目標設定～評価のPDCAサイクルを実践し、スモールステップで目標を引き上げる。その際には、本人が振り返る機会を設定し、課題の発見や、成功体験を味わう過程を大事にし、本人が「自己肯定感」を高めながら、未経験の課題に対して「挑戦する意欲や態度」が身につくようHR活動や各授業が連携しながら指導をすすめる。

このように、教育活動のあらゆる場面において、「指導・支援」の両側面から生徒や保護者にアプローチできる組織体制づくりをめざす。

3 教員の資質向上及び共生社会作りへの参画

本校教員は、校内での授業指導・支援の専門性の向上に加え、本人・保護者の願いである「企業就労」を3年間でかなえるために、職場開拓に組織であたる。具体的には、就労先の企業確保にむけて、「障がい者の権利、雇用や福祉制度に関する基礎知識」をつけ、営業力（地域資源の把握・ビジネスマナー・プレゼンテーションスキル等）を高める。職場開拓により、職場実習をはじめとする校外の実習先を学びの場として確保する。これにより、生徒はリアルな社会（地域住民、企業、福祉・労働等の関係機関）より評価を頂けると共に、社会に対しては、生徒の頑張りや教育実践を広く発信する機会を得ることができる。また本校教員が、校内で有効である指導・支援方法を職場等で示すことにより、知的障がいのある生徒への支援者を増やすことができる。卒業後に地域社会の平等な構成員として障がいのある生徒が社会参加できるよう、教育公務員の立場から社会に働きかける。

4 安心・安全な二校併設型の学校づくり

2校兼任の教員としての自覚を持ち、枚方支援学校との併設校ならではの「良さ」を生かし「難しさ」を課題解決するよう、組織体制・学校行事企画や授業での連携・交流・調整を3年間をかけてすすめる。特に「防災・防犯・情報管理・生徒指導」等の危機管理については、速やかな情報共有と連携体制の強化を図り、2校の教職員とPTAも協力しあい高い危機管理意識を持ちながら「2校一緒に安心・安全」な学校づくりをめざす。

5 高等支援学校としての「支援教育センター的機能」の確立・発揮

府内高等支援学校と高等学校（サポート校）と協働体制を確立し、「障がいのある生徒の実態把握や対応」「知的障がいのある生徒の就労支援・キャリア教育」について共生推進教室設置校の他、府内高等学校のニーズに応じた支援を展開する。そのために、府内高等支援学校5校連携体制を強化し、教員間の「教科指導・進路指導・生徒指導」等の教育実践交流をすすめ、高等支援各校の教育力向上を図る。そして、将来は、北河内に開校した初の高等支援学校として、北河内ブロック内の支援学校に対して、本校の教育実践を発信しつつ、企業への雇用促進を共同でアピールするなど、「キャリア教育」のセンター校としての役割を果たしていく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>学校教育自己診断 12月14日、20日回収</p> <p>1. 提出率 保護者 82.8% 生徒 92.2% (本校生のみ) 教職員 100% (無記名での提出なので、あえて未提出保護者に対し、昨年度のように個人懇談時に提出を再度催促する対応をとらなかったため、昨年度 100%より回収率が下がった。)</p> <p>2. 分析方法 ①「よくあてはまる」②「ややあてはまる」を肯定的回答、③「あまりあてはまらない」④「まったくあてはまらない」を否定的回答、ととらえる。各質問項目と【カテゴリー別】の平均を算出し、昨年度の結果と比較。ア:肯定率が上がった項目、イ:否定的回答率が 25%以上ある項目、ウ:保護者・生徒・教員の三者を比較して肯定率に差がある項目、について分析・考察を行った。</p> <p>3. 分析・考察 (抜粋)</p> <p>ア:肯定率が上がった項目についての考察</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒回答項目「生徒会活動に参加している」という参加意識を問う項目は、前年度(28年度)と比較し、42.5ポイントも上昇した。生徒会活動が何の何を指すか、具体的な質問項目に改編したこと、また生徒会役員選挙や委員会活動などが今年度は計画的に運営できたこと、生徒会執行役員の活躍の場を準備でき生徒が主体的に活動し始めた成果だと考えられる。 生徒・保護者「学校のホームページを見たことがある」という質問項目を「あることを知っている」に改編したところ、生徒・保護者とも肯定的回答率がそれぞれ 39.5ポイント 14.9ポイントも上昇した。このことは、学校ホームページを適時みられる環境にない家庭や、操作に慣れない生徒・保護者があることを示している。⇒生徒には、授業や特別活動の中でインターネットを通じた情報収集の方法を引き続き習熟させる必要があり、また保護者に対しては、「学校便り」等、紙面での日々日々の教育実践を発信し続ける必要性がある。 教職員回答項目「個別の指導計画・教育支援計画について関係機関と連携を図っている。」という項目を、「個別の教育支援計画については、前年度(前籍校)までの内容を引き継ぎ反映したうえで、作成活用している」に改編したところ 33.9ポイント上昇した。⇒入学決定後の中学校等からの引き継ぎ、進級に伴う学年間の引き継ぎの運用が確実になされている成果と読める。次年度は初の卒業生を出す年となるので関係機関との連携にむけてすすめていくことが目標。 <p>イ:否定的回答率が 25%以上ある項目 生徒対象の診断結果は、昨年度より肯定的な回答率が低くなった項目が多数を占めた。真摯に受け止め慎重に考察を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「先生以外の外部の方から、進路に関する話をきく機会がある。」生徒肯定率は 52.5%の結果であった。(この項目は、保護者肯定率 84.9%教職員肯定率 92.5%と比して差がある項目でもある。) ⇒外部講師を招いた講演会を3年間で効果的・計画的に実施すると共に、「ビジネスマナー講座」等が、「自分の進路決定につながる学習だ。」という認識を生徒がもてるよう、開講の目的・受講の意味づけ、振り返りをしっかり行う必要がある。 「交流学習」の項目も肯定率 61.0%と低い。今後「交流学習」の機会を増やしていくとともに、交流の意義や相手校、内容を考えていく必要がある。 「授業で自分の考えをまとめたり、発表することが多い」生徒肯定率は 62.7.5%の結果であった。(この項目は、保護者肯定率 96.29%教職員肯定率 81.15%と比して差がある項目でもある。) ⇒「まとめる」ことと「発表する」ことが2つ盛り込まれた質問であるので、生徒が答えやすいよう質問を改編する必要がある。また、「発表する」に関しては、機会を設けている授業が少ないのではないかと。事後学習(振り返り)で発表する場を必ず設定するなど、授業者側の工夫が必要という意見があがった。 学校生活で「学校へ行くのが楽しい」肯定率 71.2% (昨年度比-3.8ポイント) <p>★否定的な回答をした 17名の生徒は、他の項目についてのどのような回答をしているか追跡して分析した</p> <p>「先生の指導が正しいと納得できる」 否定的回答 (③+④) 12/17 70.7% 「先生は自分のことを理解してくれる」 否定的回答 (③+④) 9/17 52.9% 「先生は私たちを大切にしている」 否定的回答 (③+④) 9/17 52.9% 「相談できる担任の先生がいる」 否定的回答 (③+④) 8/17 47.1%</p> <p>という結果だった</p> <p>このグループでは、対教員や対指導に対する信頼関係・納得の低さが見受けられ「楽しくない理由」にはこの他、第2期生徒が入学し、先輩後輩という新たな人間関係の構築が必要になったり、生徒・先生が増えたことを背景に、友人関係・授業などで苦手な部分があること、余暇的な活動が学校生活において少ないなど複数の要因も考えられる。</p> <p>⇒教員が「正しい」と思い、生徒に良かれと思ってかけた言葉が、納得できないと教職員と生徒の信頼関係が深まらず、結果今後相談ができなくなるというおそれがある。教職員はまず、生徒の話に傾聴する姿勢をもち、生徒の「なぜ?」という意見に丁寧にわかりやすい言葉で時間をかけて話をする必要がある。コミュニケーションが一方通行の指導ばかりになっていないか注意したうえで、適切な実態把握、指導、評価の段階をふむことが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「担任の先生以外に保健室や相談室などで気軽に相談できる先生がいる。」全体の肯定率 62.7% ⇒「相談」は教員からの積極的なアプローチが必要。また、相談が指導になっていないか注意が必要 「先生は、いじめなどのいろいろな問題を見逃さず考えてくれる。」全体の肯定 	<p>第1回 (7/6開催)</p> <p>「学校経営計画説明・教育課程・土曜参観アンケート回答集計・選定教科書の紹介」 「MURANO キャリアプラン～Link～つながる～Link」に対する期待と助言</p> <p>1. 「地域社会とつながる」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 在学中より社会にできる意識を育て、地域社会とつながっていくことは大切である。 指導する側は、社会の潮流をとらえ、社会から新技術を絶えず求めるなどの感性と高い専門性を持って指導してほしい。 地域住民には、兼業農家も多い。生徒の農業体験などの連携協力は可能である。 開校にあたり通学時の交通事情の悪さを懸念したが、学校関係者の努力もあり、今のところ問題なく安心している。学校内での活動が地域住民から見えにくいので、早くカフェをオープンして地域に開放してもらいたい。地域に学校をアピールする絶好の機会となる。 就業定着のためには、職場での人間関係が重要。在学中にコミュニケーション力を高めると共に、就職後も地域の就労支援機関とつながっておくことが大切。 <p>2. 「職場実習とつながる」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内の実習が、生徒の職場実習先とどのようにマッチングさせているのか興味のあるところ。校内外の様々な就業体験を経て、3年間で得意なことを各々生徒が見つけれられることを望む。 何故働くのか、働く理由を考えさせる指導をしてほしい。 「就労による社会自立」に向かって、家庭でも出来ることがたくさんあるように思った。保護者としても家庭で連携してできることは、学校と協力して子どもを教育していきたい。 <p>3. 「学校行事とつながる」について</p> <p>【カフェ(接客サービス)による食品加工分野「天の川ゼリー」・窯業分野「菓子皿」製品紹介】</p> <p>4. 「授業でつながる」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育の中でどう生徒を育み就労につなげていくのか、よりよく生きていくためにどういう力をつけるのか、生活力・人とつながる力などを重視し、整理していく必要がある。例えばキャリアプランのステージ表作成等が有効。各教科ごとに付けたい力や学習内容が関連づけられているほうが、単元(テーマ)を指導者が絞りこみやすいのではないかと。 <p>5. 今年度追加の中期目標の柱「生徒本人を中心に据えた『支援と指導』体制の整備」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「障がい者差別解消法施行年」を受け、生徒本人を中心に、自己決定・自己選択は重要である。具体的な取り組みに今後期待する。実践後は、ぜひ報告してほしい。 高校生活は、3年間しかない。この学校で学べる時間は限られている。指導の際は、個々の子どもに応じた分かりやすいアプローチでの工夫を是非お願いしたい。
	<p>第2回 (7/6開催)</p> <p>「平成 28 年度学校教育自己診断の概要と診断票」「経営進捗報告」について</p> <p>1. 本年度「学校教育自己診断質問項目」改善・追加点についてのご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者・教員の三者回答の差を対比する分析とするよう項目を整え見やすい。 「教育相談」「授業の見学」の項目問題なし。進路関係の項目も丁寧で、特に問題はなし。⇒診断票の質問項目作成と活用については、各分掌で分担して作成、点検した。今後、診断結果の分析・考察も各分掌にフィードバックして次年度の分掌活動計画にも活かしていくねらいを説明。 <p>2. 診断項目に付随する学校経営についてのご指摘</p> <ul style="list-style-type: none"> 「危機管理」の項目：生徒用の項目を多く、内容を深めてもよいのでは?各地で地震が続いているので、防災教育や学校の危機管理体制についてハードソフト面の充実を望む。 「個別の教育支援計画、指導計画」の運用状況を伺いたい。 保護者代表としては、むらのに入学後、意義や内容が理解できて良かった。評価と次の目標設定を学校とやりとりするのが楽しみである。 市町村の学校では、作成した内容について、保護者とのすり合わせができていない場合が多い。センター的役割を發揮して地域に啓発してもらうことを期待する。 「教員の専門性向上」についての進捗状況問い。企業への初任者教員研修について。 「社会への啓発」についての進捗状況問い。高等学校との交流教育や共同学習に期待したい。 職場実習先の開拓の具体的な時期と体制についての問い。全体制が羨ましい。 むらのはホームページのブログ更新回数が、他校より少ない。もっと発信して欲しい。 <p>3. 「つながるカフェプラン・行事連携・地域連携の実践について」進捗報告</p> <p>⇒「MURANO キャリアプラン」を子どもたちにとって分かり易い形で進めている。10月17日にカフェの「外部向けプレオープン」を目標に生徒は各準備を行い、初めて来賓を専用通用門よりお招きした。カフェで提供するおしぼりの洗濯、パンの製造などを専門学科6分野で分担。今後はおしぼり受けやカップも分野で製造し提供予定。また店内に美術や書道の生徒作品の展示をしていく。この授業の取り組みを、多くの来校者に是非見ていただきたい。接客時には、想定外のこともおこるが、生徒は鍛えられる。よい機会だと考える。(「パン」の試食も実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月17日のプレオープンに参加した。クッキーの味も良いし、営業できると感じた。地域住民が学校を知る良い機会になるのでは。(校長：地域コミュニティ定例会メンバーのお蔭で周知が進んでいる。感謝申し上げます。) 自分のこどもの接客の対応が心配だが、外部の方と接する点で勉強になっていると思う。 府内で初の高等支援学校整備の際には、当時校内コンビニ構想もあった。知的障がいのある生徒にとって接客は難しいが、色々なスキルを獲得できるチャンスとなる。頑張っ欲しい。 「働く意欲」は働くことによってしか生まれにくい。取り組みは、ぜひ発展させてほしい。

率 74.6%⇒実施している「安全・安心アンケート」では、該当事項ゼロ。今回の肯定率と差がある⇒「安全・安心アンケート」は記名式。生徒は申し出しにくいことも予想される。今後この「アンケート」の回答集計方法等の改善が必要。
ウ:保護者・生徒・教員の三者を比較して肯定率に差がある項目
 前述の「進路学習としての外部講師の活用」「授業における言語活動、まとめ・発表」以外には

・「評価の在り方について話し合う機会がある。」教職員肯定率は、59.55%の結果で、「適切・公平な評価」保護者肯定率 92.5%生徒肯定率 86.45%と比して低い結果となった。これは、教職員が、「各教科の個別の指導計画」についてや「生徒にわかりやすい評価の通知方法」等々「評価のあり方」について深く議論したいと感じていることが読みとれる結果となった。⇒今後は、「評価の在り方」について話し合う時間の確保やその協議方法について検討していく必要がある。

4. まとめ 次年度に向けて

今年度は自己診断実施 1 年めなので、質問項目をほぼ変えず、昨年度の結果と比較しながら分析を行った。特に、生徒の声に耳を傾けるため、生徒回答の評価の分析と考察に重点を置いた。「学校へ行くのが楽しい」「先生は障がいのことも含めて自分のことを理解してくれている」「担任の先生以外に気軽に相談できる先生がいる」「先生の指導は正しいと納得できる」などの項目に否定的な回答率が高いことを教員は真摯に受け止め、専門性を積み、教員間の情報共有連携のもと生徒との関わり方について考えていく必要があると思われる。

学校と家庭の連携度について問う、連絡帳を通じての日々の連絡や授業公開、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」をツールとした連携については、保護者・教職員ともに肯定的な回答率が高く、日常・運用上の連携はスムーズに行われていると思われる。しかし、「相談」については、保護者の否定的な回答率が高く、思春期の子どもをもつ保護者の不安や、個々の生徒の特性に応じた支援や進路決定について日々悩んでおられる姿がみとれる。より適切な指導支援を学校と家庭が連携して行うためにも、教職員は信頼関係を更に築き、保護者が気軽に相談できる体制等も、充実させる必要があると思われる。

教職員からは、全員が新転任者で始まって開校した 2 年めの学校である中、初任者など経験の少ない教員への支援・伝達研修・評価についての話し合いなどに、時間が充分とれていないという課題があがっている。教職員の長時間勤務の縮減に向け、業務の分担や能率的な会議の持ち方なども検討課題である。

次年度は 3 学年が揃い、在籍生徒・教職員数は、定数を満たすこととなる。今年度の結果と分析を基に、具体的方策を経営計画に盛り込み、生きる力を育む高等支援学校をさらにめざしたい。

- ・学校は疑似体験が多い。疑似体験ではなく外部に門を開いたことはとても良いと思う。
- ・カフェのエリアにショップ常設などかどうか。「天の川ショップ」など。
- ・今後もマンネリ化しないように、刺激のスイッチを探し続けることが大切である。学校ができあがった後に取り組みを維持することが大切だと思う。

第 3 回 (3/1 開催)

1. 「学校教育自己診断」の集計結果と考察について報告

①生徒の項目②保護者の項目③教員の項目④三者比較の考察の報告を中心に説明し、協議員の方にご質問と意見を伺った。

・生徒の意見については、どう学校運営に活かすのが大事。今後の自己診断への参加意欲にも影響する。⇒各分掌などで協議し経営を改善するが生徒会を中心に見える形で答えを返す方法も今後考えていく。

・考察は非常によくまとめられているが、改善に向けた具体策はあるのか。例えば生徒への話し方、伝え方などの教員の資質向上の具体的な研修・スキル向上の機会など。

⇒：公開授業週間の設定をし、教員間の授業力向上の機会は設けている。事後の協議が充分実施できていないことが課題。ご指摘の生徒理解に基づく生徒指導、授業のあり方については次年度以降の大きなテーマとして認識している。具体策も含めて考えていきたい。

・開校から 2 年でよくやってこられたことが感じられる。ただ若手教員などの指導、育成態勢が取れていないことが気になる。どこの昨今、どの企業でも共通の悩みだが OJT などの取り組みをしかけてみてはどうか。

⇒まずは確かな授業づくりをしっかりと行う必要があると考えている。研修については法定研修の他、自校独自で初任者に向けて企業での就労を経験する、社会体験研修を行った。有意義な取組であったと感じているので、次年度も実施したい。

・個別の支援計画についてはかなりしっかりと書かれている。保護者のなかにはその意義や本来のフォームを知らない方もいるのではないかと。

・ホームページなどの情報発信については改善が必要であるのでは。

・教員の項目で否定的な回答率が高い項目は、責任感からのものであると思われる。

日々の忙しさのなかで大変であろうと思われそうですが、時間を作り、人材育成に注力 いただきたい。⇒有効な時間の生み出しは、喫緊の課題。19:00 までに退校する「はよかえろう DAY」を試行実施しているが、超過勤務増による体調不良者を出さないよう心掛けたい。生徒指導対応や保護者連携のための時間外の対応などもあり、簡単に徹底は難しい日もある。今後もマネジメントしていく必要はある。

この他、生徒の支援の在り方について「進路学習」、「相談体制」の在り方について活発な意見交換が行われた。

2. 「平成 28 年度学校経営計画と学校評価」について報告。質疑応答

本年度の取り組み、自己評価について資料に沿って説明。

・「カリキュラムマネジメント」、「シラバスの第 2 次改定」、「第 3 学年の 1 日学科授業日」「一日カフェオープン日」について担当者より計画を報告。

・第一期卒業年度を迎えるにあたり、「個別の移行支援計画」について作成運用の充実をすすめる必要がある。

・安心安全な学校づくりの進捗について確認。避難指定場所になっていないことから地域住民と連携した防災訓練には参加していない。将来的には施設の共有化も必要になってくる。地域住民のニーズが高まれば、話も進んでいくと考えられる。

・地域支援については、府内 5 高等支援学校の連携体制を構築させたい。センター的機能発揮が支援学校の使命だが、まずは 5 校の学校としての専門性の向上が先決。まずは共生推進教室の設置校へ支援が必要な生徒に対するアプローチを計画している。

3. 「防災プロジェクトチーム」実践報告

「防災プロジェクトチーム」活動報告資料に沿って説明。

4 経営計画全体についての協議

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「就労を通じた社会的自立」をめざした『キャリア教育』の推進 教育課程と各教科の指導計画の充実	(1)「むらのキャリア教育プラン」の完成 (2)上記プランに基づき、学習内容を実施 ア内容の精選、新教科開設 イ教科横断型の「つながる」授業づくり推進 ウ喫茶サービスとの「つながり」 工行事やLHRでの取り組みと各授業内容の関連付け	(1)系統的継続的なキャリア教育推進のため、キャリア教育推進コーディネータを中心に、「むらのキャリア教育プラン作成ワーキングチーム」を組織し、プランを完成させる (2) (ア)各教科は、年間指導計画を「同プラン」に照らして練り実施する。新教科「流通サービス」「キャリアデザイン」は「同プラン」から系統的に実施。 (イ)複数の教科で学習内容を計画的に関連付けたり、学科内の2つの分野で連携して製作や生産、サービス提供を開発する。 (ウ)「天の川カフェ」エリアを各教科と「つながる」場として充実させ、学習の達成感を高める。(作品展示・加工食品の販売・カフェグッズ製作使用など) (エ)宿泊研修等の行事、性に関する指導・人権学習・防災学習なども各教科と関連付けて計画的に実施する。	(1)【5月末までに28年度版の完成】 (2) (ア)新設教科を含む各教科・分野は、プランをもとに「社会自立へのねらい」をもった授業を実施。 (イ)3学科とも2つの分野が連携して教育活動に取り組む (ウ)カフェエリアでの作品展示・販売・グッズ製作のうち2つ以上取り組む (エ)行事やLHRの取り組みは、教科の授業と関連付けてながら実施	(1)完成。(○) 「MURANO キャリアプランLINK～つながる～LINK」教育活動の推進始動 (2) (ア)授業を実施し、年間指導略案の蓄積ができた。(○) (イ)「国・書」、「英語・カフェ」等関連付けしたの学習単元の実現(○) (ウ)カフェで使用する目的を持った作業学習として、窯業分野での「コーヒーカップ製作」木工分野での「おしぼり受け製作」食品加工での「クッキー製造販売」やクリーニング分野での「おしぼりの洗濯提供」書道作品の展示等、顧客に対する発表の機会を得て、生徒の主体的な学びが活性化した(◎) (エ)LHRの取り組みである「性に関する指導、人権学習、防災学習」については、まだ十分ではなかったが、学年ごとに年間行事とつながる各教科の取り組みを1年間を通じて実現できた。(○)
	オ「職業観」「勤労観」を育む地域と「つながる」授業試行 (3)「教育課程検討」と「シラバス」の充実	(オ)2年の学科、職業共通科目等については、地域住民や学校園福祉施設・企業等の社会資源に協力を求め、外部講師を招聘したり、校外実習へ出かける。1年次の基礎学習を発展させ、2～3年次へと実社会で仕事をするイメージを体感できる学習の機会を開拓・試行する。 (3)各教科、職業に関する学科・共通科目が教育課程上に効果的に設置され、また効果的な学習集団の編成について、今年度の運用を検証しながら、次年度に向け継続検討する。 (ア)2年生の国・数で、到達度別学習の実施 (イ)「教育課程検討委員会」にて引き続き(2)を検討する。 (ウ)「むらのキャリア教育推進ワーキング」にて、今年度の各教科の授業内容を検証し、継続的・系統的なシラバスとなるよう各教科で改訂をすすめる。	(オ)2年生において各学科・共通科目は、社会資源や外部人材を活用した授業を試行【指導計画・指導略案で年度末に検証】 (3) (ア)到達度別学習の成果を検証【2年生生徒による授業アンケートで実施】 (イ)「教育課程検討委員会」を毎月開催し見直した教育課程を月末までに完成させる。 (ウ)「むらのキャリア教育推進ワーキング」が牽引し、継続・系統的な指導ができるシラバスに改定【各教科1～3年のシラバスを年度末に検証】	(オ)リビングD(枚方支援との交流・保育園への受注配達)プロダクトD(淀川河川公園よりの受注・地域住民への即売)フードD(パン製造講師招聘・カフェでの菓子販売・地域住民への即売)清掃(地域除草)流通(企業依頼包装受託)カフェ(地域向け営業開始)等実施。3年生時の連携先も計画。(◎) (3) (ア)⇒★自己診断『授業はわかりやすく楽しい』生徒肯定率89.3%→74.3%にダウン。(△)質問項目に端的に到達度別学習集団でのわかりやすさを問わなかったが、到達度別学習を実施した「国・数」をはじめとする5教科の授業指導計画と授業研究を充実させる必要がある。 (イ)「社会に開かれた教育課程」をめざしカフェの運営や校外学科実習に出やすいグルーピング、時間割に1月末までに改訂出来た。(○) (ウ)「キャリア推進PT」と「教育課程検討委員会」が推進役となり、開校準備室シラバスの様式改定を提唱し、むらのキャリアプランに基づく新様式にて3年間を見通した「生きる力を育成する」ものに各授業主担当者が改定できた。(○) ICT機器の活用機会を増やす。 ⇒自己診断『コンピューター等のICT機器が、各教科の授業などで活用されている。保護者肯定率81.9%。生きる力を育むため、就職先での仕事に役立つためという要望が自由記述にもあがってる。生徒増加に伴うICT機器の整備充実がさらに必要。 【追加項目】各種「検定」の導入 ・漢字検定(2回自校を会場として開催) ・電卓検定(1回自校を会場として開催) ・試行:ニュース検定(担当者と打ち合わせ)

<p>2 生徒本人を中心に据えた「指導と支援」体制の整備</p>	<p>(1)「個別の教育支援計画」・「移行支援計画」・「個別の指導計画」活用に基づくチーム支援体制整備</p> <p>ア 生徒の実態把握を深化</p> <p>イ 「個別の教育支援計画」に基づく「個別の指導計画」作成 内容の充実と共有強化</p> <p>ウ 本人・保護者が活用できるための運用や地域関係機関・福祉サービス等の周知</p> <p>エ 関係機関との連携体制構築</p> <p>(2)本人のニーズをふまえた「個別の移行支援計画」の充実</p> <p>ア 本人との目標課題設定充実</p> <p>イ 「移行支援計画」活用充実</p> <p>ウ 進路学習の充実</p> <p>(3)生徒本人主体のカウンセリング相談体制充実</p> <p>(4)キャリア教育に基づく性に関する指導の充実</p>	<p>(1) (ア)「実態把握報告会」を開催し、様々な立場で関わる教職員で共有する</p> <p>(イ) 「自立活動」と「個別の教育支援計画」「個別の移行支援計画」「個別の指導計画」の意義や関連性、運用に関する教職員全員の理解をすすめたうえで、本人支援のツールとしての内容の充実と活用をすすめる。「自立活動の優先課題」をふまえて各教科・HR指導の目標設定と評価、指導の改善を行う。</p> <p>(ウ)「計画」の情報管理・情報提供・地域関係機関・福祉サービス活用についての保護者研修会を実施</p> <p>(エ) ・労働・福祉・地域関係機関への定例会議出席 ・障がい者就業・生活支援センターと連携</p> <p>(2)運用整備（進路指導部・支援部）ワーキングを実施し、「個別の移行支援計画」の様式の充実・活用をすすめる。</p> <p>(ア)職場実習前後や期末の懇談会の充実 本人と「目標設定や評価」を確認し主体性を育てる「ステップアップ懇談会」を設定</p> <p>(イ)進路支援にかかる「プロフィール表」の改訂と「職場実習評価表」の活用をすすめる。</p> <p>(ウ)むらのキャリアプランにもとづき「進路学習」は、「キャリアデザイン」の授業や職場実習と関連させながら年間行事計画に組み込まれ実施</p> <p>(3)人間関係、進路、健康等の悩みを気軽に打ち明けられる場を生徒に知らせ、 ①相談しやすい環境設定と②人材を確保し、昨年度よりさらに充実させる。</p> <p>(4)関係分掌部や委員会と連携しながら「むらのキャリア教育プラン」を軸に1年生：自分のことを知る 2年生：相手のことを知る 3年生：社会のことを知るをテーマに、学年団を中心に企画し、3年間で計画性・継続性のある指導を生徒の実態に応じたグルーピングに工夫しながら実践する。</p>	<p>(1) (ア)全教職員で4月中に2回実施する</p> <p>(イ) ・新転任研修を6月までにそれぞれ1回実施する</p> <p>・学校教育自己診断の項目「『支援計画』は引き継がれた前年度の『計画』を活用し、本人・保護者のニーズに応じて作成されている」において、肯定率目標100%</p> <p>・学校教育自己診断の項目「各教科の『個別の指導計画【通知表】』は、子どもの学習の達成度を適切に評価されるように工夫されている。肯定率目標90%以上</p> <p>・学年団・担任団による、個別のケースをとらえた「事例検討会」を教職員向けに実施【年間2例】</p> <p>・「個別の教育支援計画・指導計画会議」を実施し、目標や評価について検討・共有体制を深化【前期3回・後期2回】</p> <p>(ウ)保護者に研修会を実施【年1回】</p> <p>(エ) ・定例会議出席【前年度実績回数による】 ・【全ての2年生在住市】所管の就・を訪問し、学校委員会にも参画いただく。</p> <p>(2) (ア) ・「移行支援計画」は、本人・保護者への「ステップアップ懇談」で「実習の評価と目標設定」として提示</p> <p>・【「学校教育自己診断」項目「将来の進路や生き方について考える時間がある」「先生は、自分の将来や職業について自分にあったアドバイスをくれる」の回答の肯定率90%】</p> <p>(イ) ・職場実習受入れ事業所が、実習生徒の支援をしやすい「プロフィール表」に改訂</p> <p>(ウ) ・各学年に応じ「職場実習事前・事後学習」実施【毎実習後】 ・外部人材を活用した「ビジネスマナー講座」実施【年1回】 ・「保護者向け進路支援研修・施設見学」実施【年3回】</p> <p>(3) ・相談室を整備 ・外部人材のスクールカウンセラー（SC）を活用して年間14回以上実施 ・「学校教育自己診断」項目「なんでも相談できる担任の先生がいる」「担任の先生以外に保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる。」において、肯定率目標85%以上</p> <p>(4)性に関する指導委員会の開催により各学年は、6月までに年間指導計画を作成（夏休み前に第1回、年に3回、グルーピング学習も含めて実施） 【指導計画・指導略案で検証】</p>	<p>(1) (ア)実施済。「実態把握報告会」だけでは、年度当初の様子の共有化に留まるので、新規に「担任・教科主担者連絡会」なども開催。(○)</p> <p>(イ) ・研修実施済(○) ・本校生徒の実態に応じた6区分26項目の自立活動の目標と手立ての共有特に「自立活動の時間であるHRの具体的な個々の活動の充実が求められる。 次年度より、時間割上に明確に「SHR」と「自立活動」の時間を分けて設定。教職員全体で指導に取り組む。 ⇒自己診断「本人・保護者面談などで確認したニーズを踏まえて作成している。教員回答86.5%保護者100%(○) ⇒自己診断「『通知表』は、子どもの学習の達成度を適切に評価されるように工夫されている。」教員回答83.8%保護者90.6%(○) ・自己診断「『支援計画』は、前年度（前籍校）までの内容を引き継ぎ反映したうえで作成・活用している。教員回答70.3%(△) 前籍中学校等への啓発・連携をさらに強化する必要がある。また学年進級前の学年団での支援計画会議の内容充実・引き継ぎ強化必要</p> <p>・「事例検討会」は1例2回実施済(○) ・担任打ち合わせ会を、目標設定→評価・懇談→目標再設定の流れで行えたが、共有体制はさらに広げる必要がある。(△)</p> <p>(ウ)進路指導部主催による「進路学習会」および「ハローワーク枚方職員による講演会」実施。労働関係機関の連携は開始できた。(○)しかし「個別の教育支援計画」の具体的な校外での活用方法について、例えば「福祉サービス」等での活用場面についての研修は実施できず、府主催の「個別の教育支援計画作成・活用実践報告会」参加案内に留まる。</p> <p>次年度は卒業学年が出来るので、卒業後の「個別の教育支援計画」の活用について運用方法の内規確定と、保護者啓発に努めたい。</p> <p>(エ) ・関係機関主催の定例会議出席【枚方市就業・会議毎月すべて出席。(○) ・【全ての2年生在住市】次年度の卒業を見込んで所管の就・を5箇所を訪問。(年度末実施予定○) 障がい者就業・生活支援センター職員による本人・保護者の為の講演会実施済み。広域の就・との生徒個別に応じたネットワークは次年度(△)</p> <p>(2) (ア)⇒自己診断「将来の進路や生き方について考える時間がある」生徒回答77.6%(△)㊦㊧ 「先生は、自分の将来や職業について自分にあったアドバイスをくれる」79.7%(△)㊦㊧</p> <p>・1年生：生徒本人を交えた懇談を3回、うち1回は、進路担当者が同席。総計年5回の懇談。(家庭訪問含む)(◎) ・2年生：生徒本人を交えた懇談を5回、うち3回は、進路担当が同席、総計年6回の懇談。(家庭訪問含む)(◎)</p> <p>(イ) ・プロフィール表の改編(○) ・職場実習日誌や、巡回指導記録、事業所の評価表が「個別の移行支援計画（職場実習評価一覧表）」で職員に共有 ・次年度については、学科や職業共通科目担当者が、担任や進路指導部と「就労を実現するための個別の課題と指導の手立て」について常時把握できる組織体制づくりや連絡会、アセスメント票の共有化などを「移行支援計画」を軸にすすめる必要がある。 ・同窓会などをたちあげ、卒業生支援体制の構築も必要。</p> <p>(ウ) ・実施済み 1年 職場実習実施ごとに1回 実習総計15日 2年 職場実習実施ごとに1回 実習総計20日 ・「ビジネスマナー講座」実施済(1年10月)(○) 【追加】・「社会人になるための身だしなみ講座」(2年2月) 「先生以外の方から進路に関する話を聞く機会がある。」生徒回答52.5%(△)外部講師の講座が、「社会自立＝進路」に結びついている意識が生徒に伝わっていないと分析される。講座内容を「将来の生き方」についてモデルを示すような内容を取り入れたり、中・長期的な視点でキャリア教育するアプローチが必要。職場実習実事前・事後学習についても職業観・勤労観を育む絶好のチャンスであるので、全教員方向性を合致させて進む必要がある。 ・PTA施設見学会を3回実施。(○) 次年度は、保護者のニーズに基づき、障がい者年金や福祉サービス利用方法についての研修が必要。</p> <p>(3) ・相談室専用の確保は難(△)・関係機関との連会・外部人材活用を推進する校内COの任命(○) ・SCの活用は計画通り実施(○) ⇒自己診断「なんでも相談できる担任の先生がいる」生徒回答72.9%、「担任の先生以外に保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる。」62.7%(△) 生徒が人間関係、進路、健康等の悩みを気軽に打ち明けられる場や相談体制が不足。次年度の大きな課題。 (4)1年生4回実施(○)2年生AB班各1回ずつ実施(△) ⇒★自己診断『性に関する指導は段階を追って計画的に実施されている』保護者肯定率64.0%と昨年度より7.9ポイントダウン。保護者回答で1番肯定率が低い結果となった。 性教育だよりなどを発信し、性教育開始にあたっての生徒の実態把握のアンケート収集時から保護者への連携・周知を大事にしていく。指導時間数の確保の為に、教科との関連付けなどを次年度はすすめたい。</p>
----------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>2 生徒本人を中心に据えた「指導と支援」体制の整備</p>	<p>(5)人権尊重の集団づくり 人権学習の充実</p> <p>(6)ネットいじめ防止に対する 取り組みの充実</p> <p>(7)主体的な生徒会活動充実</p>	<p>(5)自分の人権を守り、他人の人権も守る学習を各関係分掌部と学年団が連携しながら、3年間で計画性・継続性のある指導を実践する。生徒指導部、社会教科（歴史・公民分野）やHR指導とからめながら推進する。</p> <p>(6)今年度は特にスマホ・携帯での「ネットいじめ」等、新たないじめ防止対策のための①教員研修や②生徒へのネチケット学習をすすめる。情報教科やHR指導とからめながら実施。</p> <p>(7)生徒会規約策定・生徒会役員選挙・委員会活動、部活動を通じて、小社会である学校生活に主体的に参画する姿勢を育てるよう、生徒の活躍の場面を増やす。</p>	<p>(5)人権教育推進委員会の開催により各学年は、6月までに生徒の実態に配慮し年間指導計画を改編【夏休み前に第1回、年に3回を実施】 【指導計画・指導略案で検証】</p> <p>(6)スマホ・ネット活用に関する講習会や授業実施 ・教員・PTA対象【年1回】(主催：生徒指導部・PTA係り) ・生徒対象【合計年3時間】(主催：生徒指導部・情報担当者)</p> <p>(7) ・生徒会執行部企画による「生徒集会」等の企画実施 ・各委員会活動の実施【年7回】 ・「政治的教養を育む」主体性のある生徒会役員選挙の選挙活動と公正な実施 ・学校教育自己診断の項目「委員会活動や生徒会行事(七夕祭りや生徒会選挙など)生徒会活動に参加している」において、肯定率80%以上。</p>	<p>(5)1年生2回実施(△)2年生3回実施(○) 3年間で計画性・継続性のある指導を実践することがのぞまれる。学年の係り任せにせず、人権教育推進委員会が牽引し、生徒指導部、社会教科(歴史・公民分野)やHR指導とからめながら推進することが必要。</p> <p>(6)生徒対象に・1年実施6/21実施済み(外部講師)(○) ・2年計画9/27実施済み(教員)(○) ・教員、PTAには未実施(△) ・自己診断「先生は、いじめなどのいろいろな問題を見逃さず考えてくれる。」全体の肯定率74.6%⇒実施している「安全・安心のアンケート」では、該当事項ゼロ。<u>今回の肯定率と差がある</u> 「安全・安心のアンケート」は記名式。生徒は申し出しにくいことも予想されるという分析が生徒指導部からあがっている。 次年度はこの「アンケート」の回答集計方法等の改善が必要。</p> <p>(7) ・執行役員活動18回新役員10月始動ランチミーティング(月2回) 「生徒会ルール」決定・「挨拶運動の実施」年3回(○) ・各委員会活動(年6回)(○) ・校方選挙管理委員会事務局と連携した投票実施。(◎) ・自己診断「委員会活動や生徒会行事(七夕祭りや生徒会選挙など)生徒会活動に参加している」生徒回答、肯定率86.4%と大きく上昇(○) 開校準備室に企画された「七夕まつり」の意義について、あり方を次年度は検討し、「オープンスクール」「学校祭」とあわせて、開催意義・時期・方法を明確にする必要がある。</p>
<p>3 教員の資質向上及び共生社会作りへの参画</p>	<p>(1)授業力向上 (ア)研究授業の充実</p> <p>(イ)お互いの授業の改善</p> <p>(ウ)校外からの好事例の実践収集</p> <p>(2)生徒の社会自立に向けて、障がい特性に配慮し、個に応じた適切な「個別指導・支援」ができる力をつける。</p> <p>(3)人権尊重の指導・支援力をつける</p>	<p>(1) (ア)研究授業の実施と授業参観および外部講師を招聘した研究協議を実施。「つながる授業づくり」をテーマに研究授業や報告会を3つ以上の教科で1月末までに実施、全員で共有する。 (イ)「公開授業週間」を2期実施し、授業内容の共有化と相互評価を行う。(振り返りシート活用) (ウ)他府県を含む、高等支援学校等の授業見学に赴き、その実践を教職員と共有化する。 また、知的障がい者雇用企業に赴き、就業現場でのニーズを知り、その成果を「職業に関する授業」の指導に積極的に取り入れる。</p> <p>(2)「障がい者差別解消法」施行年度として、「障がいのとらえ方や世界の動向・国の施策を学ぶ。 (ア)あらためて「障がいのとらえ方と自立活動」について研修で理解を深め、生徒一人一人の実態をふまえた「自立活動の課題設定」ができるようになる。 (イ)「合理的配慮や基礎的環境整備」の概念や学校での対応について考えるため、外部講師による「合理的配慮」に関する研修を校方支援学校と合同で実施する。</p> <p>(3)高校生としての生活年齢や、障がいの特性をふまえて「指導・支援」ができるよう教職員対象の悉皆の研修協議を実施 (ア)「人権研修」の実施と協議 (イ)「発達障がい・知的障がいの理解と対応」研修の実施</p>	<p>(1) (ア) ①公開研究授業・報告会の実施(「つながる授業3事例」) ②各初任者で、外部講師を活用した研究授業を実施 (イ)参観者は、振り返りシートを使って全授業担当者の授業を対象に相互評価を実施</p> <p>(ウ) ①高等支援学校の見学や企業研修に参加【参加教員数10人以上】 ②その情報を教職員に還元し、共有【職員会議3分スピーチ・レポート供覧・管外視察報告会実施】</p> <p>(2) (ア)他校の指導教諭等による校内研修会実施【年1回】</p> <p>(イ)2校教職員合同研修実施外部講師による「合理的配慮」実施【年1回】</p> <p>(3) (ア)協議を取り入れた研修に全員が参加できたか【年3回】 (イ)「発達障がい・知的障がいの理解と対応」について新転者研修を実施【年1回】</p>	<p>(1) (ア) ①1年寮業・1年英語実施(12月)・1・2年流通(12月)(○) ②計画通り実施(2回×4人)(○) ・自己診断「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」教員回答、肯定率51.4%と低い。☹ (イ)実施(○) ・自己診断「評価のあり方について話し合う機会がある」教員回答、肯定率59.5%と低い (ウ) ①近知研 3人・管外支援 2人・管内高等支援 2人・管内研究発表大会5人(◎) ②管外視察報告会は年度末に実施(○) ・自己診断「研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている」59.5%と低い 新校の為、全教員が本校勤務経験1・2年の異動者ばかりの中での回答と分析。3年目までは、年度ごとに組織と業務が大幅な拡充をしていく。業務多忙感の中、個々の教員は志高く、専門性の向上意欲を持っているが、初任者の育成や「授業力向上」「評価の在り方」等の教育課題について十分交流・討議する時間がとれていないと感じていることが伺える。一方で教職員の長時間勤務の縮減も必要。業務の分担や能率的な会議の持ち方の工夫なども学校経営の大きな課題である。☹ (2) (ア)他校の指導教諭の来校は、企画できず☹、指導教諭と支援校長会主催の「転任者研修」を希望者が受講するにとどまる。(△) ・自己診断「自立活動の指導にあたっては、生徒が興味をもって主体的に取り組めるよう工夫している」教員回答56.8%☹ 「障がいのとらえ方と自立活動」について研修や計画立案時のセッションで理解を深め、生徒一人一人の実態をふまえた「自立活動の課題設定」ができるようになることは継続して取り組む必要がある。 次年度は、担任のみならず、全教員で「自立活動の取り組み」充実をめざす。 (イ)実施済6/2(○) (3) (ア)3回実施済み4/8、(2)講座1/31(○) (イ)一部テーマとしては扱ったが基礎的な部分から必要(△)次年度新転任者対象に悉皆研修を行ったり、全教員向けに定期的な「便り」として発信をするなど工夫が必要である☹。</p>

<p>3 教員の資質向上及び共生社会作りへの参画</p>	<p>4)生徒の進路実現のために「就労支援」の力をつける</p> <p>(5)地域住民や企業との連携を強化し、生徒の応援団を増やす。</p>	<p>4) (ア) 外部人材活用を含む「就労支援研修」実施 ①支援学校卒業後の進路について ②職場訪問ビジネスマナー講座 ③職場開拓とジョブコーチ：巡回指導について ④定着支援のための関係機関との連携等 (イ)教員用・保護者用「進路の手引き」作成配付と解説研修実施 (ウ)企業や福祉事業所での「教員職場体験実習」の実施 (5) (ア)地域学校や地域住民の来校を積極的に促す ①オープンスクール ②学校祭 ③【新規】「天の川カフェ」を施設設備を充実させ、営業し地域住民と生徒が直接触れ合う機会を創出する。 (イ)職場体験実習先の確保 ①「企業のつどい at むらの」の実施 ②全教員による「職場開拓」 (ウ) 地域の応援団づくりのための広報活動 ①広報物のリニューアル版作成配付 ②ホームページ：「進路指導ブログ」の立ち上げ ③地域への「学校新聞」の発行 ④地域イベント・作品展等への参加 (工)地域への貢献活動 「支援される側から支援する側へ」を合言葉に地域での清掃等のボランティア活動の実施</p>	<p>(4) (ア)①～④外部講師や指導教諭等による研修【年4回】 (イ)「進路の手引き」完成配付・研修実施【10月中】 (ウ)初任転任対象に【4人以上】実施（夏季休業期間） (5) (ア) ①②項目については、昨年度学校施設見学会受け入れ回数・人数による評価 ③については、学校祭以外に「地域住民」に喫茶サービス等を提供し生徒が交流【年3回、20人以上】 (イ) ①「つどい」（前年度実績をもとに評価25事業所67人） ②職場実習先確保数【76社以上】 (ウ) ①学校案内・実習依頼リーフレット・ポケットホルダー作成 ②ブログ【年20本】掲載 ③「学校新聞」の発行【年3回】 ④即売や学校紹介パネル、生徒作品を展示 (工) ・学年活動・分野の授業・生徒会活動などで、地域住民に貢献する活動を企画【年1回以上】</p>	<p>(4) (ア)教員対象には2回実施①4/13②5/7③7/21④11/ (○) (イ)手引き完成済 保護者に11月研修実施済み(○) ・「福祉サービスの利用」については説明未。3年生の早期に更に講師を呼んで説明が必要。 (ウ) 初任者4人実施済(○) (5) (ア) ①OS4回実施 計680人申し込み598人参加(◎) (昨年比+59人) ②WEB一般の申し込み(80人)を含む総計268人が来校(◎) ③10/17フルオープン来賓12人招待済み 12月より一般オープン：「地域住民」のべ20人(12月10人/4日間、1月10人/4日間)が来店。生徒が交流。(○) (イ) ①「つどい」実施2回12事業所17人来校「来校型」は減。 「出向型」で「商工会議所」「ロータリークラブ」の定例会にて「学校紹介・職場実習協力願い」が実現、約80事業所にアピール。(◎) ②新規確保数【30社】先の確保分と合わせ、予定どおり76社以上確保できた。(○) 1・2年生64人に対して予定通りの職場実習が実施できた。(○) (ウ) ①作成配付活用中(○) ②進路指導ブログ未開設(△) ブログ【13本掲載】(△) ㊦ ㊧ 「天の川カフェの営業日」「開かれた教育課程の取り組み」等適時情報を更新し、地域や企業を惹きつける細やかな手入れが必要。 ③【3回発行済】地域自治会長、民生福祉委員、小中学校代表者等60名と保護者、併設校に本校の教育内容を発信できた。(○) ④即売は校内に留まる。(△) 展示×進学フェア・即売等にでかける機会が増えていくにあたり、展示パネル等でのアピール物が必要 【追加項目】記念品の製作受託⇒淀川河川公園との連携で「三川合流域拠点施設～さくらであい館」開所式典配付記念品を受託。窠業：箸置きと流通サービス：包装加工作業のコラボで200セット3月末に納品予定。(◎)。 (工) 共生清掃の授業にて近隣地域草刈。地域に貢献する清掃実施。(○) 単発ではない、継続的な地域貢献を「福祉の授業等を通じて」連動して行いたい。</p>
<p>4 安全・安心な二校併設型の学校づくり</p>	<p>(1) 2校意思疎通調整の場の充実。</p> <p>(2) 施設・設備の整備点検を2校が協働してあたり、安全で快適な教育環境を整える。</p> <p>(3) 2校協働による防災・防犯体制の確立</p> <p>(4)交流活動と生活指導の充実</p> <p>(5)PTA活動で保護者同士の交流・連携を図る</p>	<p>(1) (ア) 2校間の学校運営に関する意思疎通や調整の場の設定 管理職連絡会の開催 (2) 施設安全点検・ヒヤリハットの共有・学校事故防止 ①特別教室、②プール使用担当者連絡会開催し、施設設備の適正な使用方法情報共有 ③安全点検・全校特別清掃の実施 ④校内整地・美化・セアカゴケクモ駆除 (3) (ア) 防災PTを2校で組織し、「危機管理マニュアル」の改編、BCP(事業継続計画)の立案を行う。 (イ) 実践的な2校合同の① 防災・② 防犯訓練を行う。 (ウ) PTA活動との連携のもと、大規模災害時の①「非常持ち出し袋」を検討し、②校内備蓄品などの充実を図る (4)子どもたちがお互いを知り、認め合い同じルールを守りながらよりよい学校生活を送れるよう常に連携する (ア) 共に楽しめる合同行事の企画開催をすすめる ①合同学校集会(年2回) ②交流行事「七夕まつり」の開催 ③「創立記念日集会」の実施 (イ) 自主通学生徒の交通安全指導を連携して行う ①自主通学：通学マナー指導、 ②交通経路安全指導 ③自転車通学：道路交通法規指導 ④自転車整備指導(保険加入学習) (ウ)2校生徒指導部の連携・協力 (工)部活動での連携・協力での取り組み企画 (5)PTA活動の相互交流の場の設定 健康安全・防災・進路支援・子育て支援の観点で講演会や施設見学会等の相互の企画参加交流。</p>	<p>(1) (ア)管理職連絡会【月初1回】 (2) ①特別教室使用担当者連絡会開催【年2回】 ②プール使用者連絡会開催【年2回】 ③分担分の特別清掃・安全点検実施【毎月1回】 ④校内整地美化・セアカゴケクモ駆除【PTA活動と連携1回】 (3) (ア)防災PT会議の開催【年3回】とむらの防災ワーキング部会の実施【年6回】により、「危機管理マニュアル」改編、 【BCP(事業継続計画)】を作成 (イ) ①2校協働防災避難訓練が実施できたか【年1回】 ②2校協働防犯訓練が実施できたか【年1回】 (ウ) ①【「非常時持ち出し袋」リスト】作成 ②枚方支援との協働で【備蓄品購入を計画】 (4) (ア) ①合同学校集会【年2回】 ②「七夕まつり」実施【年1回】 ③「創立記念日集会」の実施【年1回】 (イ) ①通学マナー指導【4月実施】 ②交通経路安全指導【★登校時見守り毎日実施】 ③自転車通学生徒の道路交通法規指導(登録対象者) ④自転車整備指導(登録対象者)(保険加入の意義学習) (ウ) 高等部生徒指導部長との連携打ち合わせ実施(適宜) (工)2校の部活動で交流する企画を実施(年2回) (5)枚方PTA交流会を開催【年2回】 左記テーマによるPTA活動による共催行事実施【年1回】</p>	<p>(1) (ア) 定例会として予定通り実施【○】 (2) ①②実務者同士で実施(○) 次年度に向けて必要性を確認中 【追加項目】生徒対象「心肺蘇生法」講習実施(外部講師) ③特別清掃月2回(◎) ④PTAの援助必要なしで職員で対応できた。(○) (3) 合同会議は2回開催。「2校合同の防災マニュアル」第1版は、年度末に完成予定(○) 本校の「危機管理マニュアル」改編は手が付けられず(△) 【BCPは、一時避難所にも指定されていないことから未着手。】 (イ) ①9/27 地震避難訓練 11/1 地震火災避難訓練 実施(◎) ②7/7(生徒)単独 7/1不審者対応訓練(教員)連動実施 枚方支援とは合同で行わず(△) 日程調整が困難。(ウ) ①PTA保健安全専門委員会にて検討開始(△) ②予算的な理由で、備蓄品は不十分のままである。(△) 枚方支援と共に生徒数が大幅に増える。備蓄品の充実や非常持ち出し袋の置き場所の確保が新たな課題 (4) (ア) ①実施できず。(△) 次年度は、当初より年間行事計画に盛り込む。 ②実施済み(○) 次年度の交流行事は時期や内容を再検討。 ③枚方に合流参加(△)(一部にとどまる：実習中の日程であったため) (イ) ①実施済み(○) ②実施継続中(◎) 下校時の見守り体制も注意する必要がある。 ③ほぼ自転車通学者がいない状況。未実施(△) ④①時に同時に講話済み(○) 保護者周知徹底済み(◎) (ウ)実施 (工)部活動の時間があわないため未実施(△) (5)未実施(△) PTAのニーズを拾う必要がある。</p>

<p>5 高等支援学校としてのセンター的機能の確立・発揮</p>	<p>(1) 高等学校への地域支援充実</p> <p>大阪市立なにわ高等支援学校が府に移管され、大阪府内は5校の高等支援学校施設整備体制が一定の完成をみた。今後は連携して切磋琢磨し、学校経営の充実を図りながら共に「キャリア教育推進校としてのセンター的機能」を高等学校等に発揮する。</p>	<p>(1) (ア)府立高等支援学校5校体制での地域支援 地域支援整備事業「職業学科高等支援グループ」の整備推進 ①ブロック会議等参加 ②実務者企画の連携会議 ③「合同相談会実施」(ケース相談支援実施)</p> <p>(イ)「府立高等学校支援教育力充実サポート校」との連携 ①実務者連携会議参加 ②サポート校「合同相談会」の参加</p> <p>(ウ)「共生推進設置校コーディネーター」との連携 高校に対する地域支援の取り組みとして、まず、設置校への相談支援を展開する。 ①前段階として本校教員や高等学校教員への共生推進教室制度の理解推進 ②共生推進教室設置校(芦間・緑風冠)との教員間での学校訪問実施 ③設置校ニーズに応じた知的障がいや発達障がい生徒の理解と支援についての設置校内での研修実施。 ④共生推進教室生徒の進路支援 ⑤生活指導上の連携体制確立</p>	<p>(1) (ア)(イ) 5校新体制での地域支援体制整備、支援ニーズ情報収集 支援内容の確認 ①ブロック会議等参加 ②実務者企画の連携会議 ③「合同相談会参加・実施」 【評価指標は前年度実績との比較】</p> <p>(ウ) ①校内研修の実施(年1回4月中) ②教員間での学校訪問(前年度実績以上) ③設置校でニーズに応えた研修を実施 ④共生推進教室生徒の職場実習開拓支援 ⑤共生推進教室生徒の生活指導支援</p>	<p>(1) (ア)(イ) ①高等支援G連絡会3回 (○) 北河内B連絡会にも参加3回(○) 府主催:実践協議会2回、自立支援・共生推進教室担当者学習会・連絡会等参加(○) ・府内5校体制となり、また、制度が出来て10年が経過し、新旧交代も始まっている。ますます緊密な情報交換や各高等支援学校の共生推進教室設置校との連携が必要。 ②1回(○) ③合同相談会 実施済み(△)</p> <p>(ウ) ①実施済(○) ②芦間・緑風冠の教職員がむらのへ来校 教員数(19人)むらの教員が共生設置校への訪問学校祭時(○)・平常授業時未実施(△) ③実施済1ケース(○) ④進路指導部と連携し、本校実習先の情報を提供し、地域性・生徒特性にあわせて共生指針教室生徒の職場実習先を確保。(○) 生徒指導上の連携では、事案発生時には、個別の相談や指導時間を設け、設置校の教員と連携しながら本人や保護者にあたれた。(○) ⑤火曜日登校時の共生推進教室生徒の学校生活上のルール指導についての連携は十分でない。方針を関係者で協議・確認し、連携してすすめる必要がある。(△)</p>
	<p>(2) 地域学校園にに対する支援教育の理解啓発 本校「教育プログラム」の周知</p>	<p>(2) (ア)「知的障がいのある生徒の就労支援・キャリア教育」についての教育活動紹介 ①学校ホームページによるブログ記事掲載 ②支援教育に関する地域小中学校・市教育委員会等の夏季研修・施設見学の受け入れ ③オープンスクールの実施 ④学校見学会の実施 ⑤高校進学フェア等の参加</p> <p>(イ)高等学校との「交流・および共同学習」の深化 ①クラブ活動を軸とした高校との交流 ②学校祭を機会とした高校との交流 ③ブロック高校展への参加</p>	<p>(2) (ア) ①学校ホームページブログ記事掲載(進路ブログ含む年40本) ②夏季研修・学校見学の受け入れ(昨年度実績回数により) ③オープンスクールの実施(3日間で4回実施)【500人】 ④学校見学会の実施【前年度数にもとづき評価】【38/176人】 ⑤高校進学フェア等の参加</p> <p>(イ) ①クラブ活動を軸とした支援学校同士の交流【年2回】 ②学校祭を機会とした高等学校との交流【年1回】 ③北河内ブロック高校展への参加【年1回】</p>	<p>(2) (ア) ①特設した進路ブログ開設できず(△) ・進路指導部発信にとどまらず、「学科」「職業共通」などキャリア教育に関わる教育実践をブログ記事にて発信していきたい。 ②学校施設見学(10団体120人)(△)(昨年度比-1団体) ③OS教員等の支援者来場数(71人/680人)(◎) ④見学会教員参加数(31人/157人)(△) ⑤高校進学フェア参加ブース対応数(25人) 【追加項目】⑥知的障がい生徒自立支援コース設置校・共生推進教室設置校など実践報告会共生実践報告会の参加(来場者約500人) ⑦学校経営大会にて、府立学校管理職・首席等に実践報告</p> <p>(イ) ①支援学校バスケットボール大会・支援学校サッカー大会・スポーツフェスタ参加済 高等学校とは香里丘高校交流試合1回のみ(△) ②学校祭交流はなし(△) ③北河内ブロック展高校展へ参加:鑑賞にとどまる(△) ・自己診断「近くの学校や、学校の近所に住んでいる人々との交流の機会がある」生徒回答61.0% 地域高等学校と継続した交流活動の基盤が今年度も築けなかった。また、部活動についてはスポーツ部以外も校外活動を広げ、作品出展等での参加・交流をめざしたい。 次年度に向け ①共生推進教室設置校との交流を検討 ②私学高等学校との交流を検討 ③北河内地域の高等学校との交流を検討。</p>
	<p>(3) 府内支援学校への「就労支援」「キャリア教育」の取組み発信</p>	<p>(3) 府内高等支援学校間で教育実践の交流をすすめ、府内支援学校生徒の「就労支援」「キャリア教育」についてセンター的役割を果たせるようモデルリーダーを育成する。 ①5高等支援学校の公開研修会・実践交流会に参加 ②生徒指導に関する高等支援学校連絡会に参加 ③教務分掌業務に関する同連絡会参加 ④進路指導・企業開拓に関する情報交換会企画実施 ⑤今年度の「つながる授業」の実践報告記録作成</p>	<p>(3) ①公開研修会・実践交流会に参加し、校内職員に伝達 ②生徒指導連絡会に参加し、校内の分掌活動に取り入れ ③教務分掌業務連絡会に参加し、校内の分掌活動に取り入れ ④進路指導・企業開拓に関する情報交換会実施(年1回) ⑤今年度の「つながる授業」の実践記録作成【年度末】</p>	<p>(3) ①たまがわ自立活動研究会への2名参加(○)・次年度の「自立活動」充実への機運が高まった。 ②③実施済み(教務部1回・生指部3回)(○) ・次年度は「職業学科高等支援学校Gの幹事校」なので5高等支援学校の連携の牽引役として、地域への企画発信が更に望まれる。 ④進路指導部交流未実施(○) 自校の進路職場開拓や実習プログラム企画、教職員や保護者の進路研修企画に各校が精一杯の状況と推察される。実務者以外の推進者が必要。 ⑤未開始(△) 実践を積み上げ中。3年目にまとめ、4年目に発行したい。 次年度は「学校経営推進費」をいただいた「つながるカフェプラン」をはじめとする「MURANOキャリアプラン」に基づく教育実践を開校3年間のまとめとして校内で共有、外部へ発信準備。 ワークキャリア・ライフキャリアの実践を広く地域に発信する前段階として次年度は、職業に関する専門学科や職業共通科目に関する授業実践交流を、府内5高等支援学校で開始したい。</p>